

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

質問リストを用いたデジタル化意思決定支援プログラムおよび
質問リスト導入総合プログラムの開発

研究分担者

明智 龍男	公立大学法人名古屋市立大学 大学院医学研究科 教授
朴 成和	東京大学医科学研究所附属病院 腫瘍・総合内科 教授・診療科長
山口 拓洋	国立大学法人東北大学大学院医学系研究科 医学統計学分野 教授
上野 太郎	サスメト株式会社 研究開発部 代表取締役
桜井 なおみ	キャンサー・ソリューションズ株式会社 代表取締役
島津 太一	国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策研究所 行動科学研究部 室長
白井 由紀	関西医科大学 看護学部・看護学研究科 治療看護分野 がん看護学領域 教授
秋月 伸哉	東京都立病院機構 がん・感染症センター 都立駒込病院 精神腫瘍科 部長
小濱 京子	東京慈恵会医科大学 がんサバイバーシップ・デジタル医療学講座 助教
岡村 優子	国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策研究所サバイバーシップ研究部 研究員

研究要旨

本研究は、限局期を含むがん患者が診察前に疑問や希望を整理し、医療者との話し合いに主体的に参加できるように、質問リストを用いたデジタル化意思決定支援プログラム（Digital Decision-making Support Program: D2SP）を開発し、その成果に基づき、医療者教育および施設導入支援を含む総合プログラムとして全国均てん化を目指したものである。

令和7年度は3か年計画の最終年度として、前年度までに開発・検証してきたD2SPおよび質問リスト導入総合プログラムを、全国実装に向けた普及基盤として再構成し、ウェブサイト上で公開した。D2SPは、17項目版QPL（基本の質問リスト）と患者向け説明動画から構成される患者向け資料である。質問リスト導入総合プログラムは、D2SPに、医療者向け動画教材、導入フロー、使用方法の5ステップ、FAQ、医師・看護師の声かけ例、実装のきっかけや導入時の工夫を紹介する実装インタビュー、実装支援テキストを加え、患者向け、医療者向け、施設導入向けに分類し、それぞれが利用しやすい形で整理した。これらをパッケージ化するとともにUSB媒体セットを作成したことにより、インターネット環境に依存せず、院内研修や導入準備に活用できる形とした。

また、研究班では、がん診療を行う複数施設における導入後評価、がん関連学会会員医師およびがん診療連携拠点病院がん相談部門を対象とした全国普及度調査、関連学会と連携した質問リスト実装ワークショップを実施した。これらにより、質問リスト導入における施設ごとの調整事項、導入上の課題、必要な支援を把握し、得られた知見をウェブサイト掲載内容、実装支援テキスト、USB媒体、全国展開方針に反映した。

以上より、令和7年度は、D2SPおよび質問リスト導入総合プログラムを普及実装基盤として整備・公開した。これにより、患者・家族、医療者、医療機関がそれぞれの立場で活用できる資料を整備し、質問リストを活用した患者中心のコミュニケーション支援を全国に展開に向けた基盤を形成した。

A. 研究目的

がん医療では、診断時、治療選択時、治療変更時など、患者と医療者が情報を共有しながら意思決定を行う場面が多い。一方で、患者は診断や治療説明に伴う心理的負担の中で、何を質問すればよいか分からない、疑問や希望を十分に表出できないことがある。患者中心のがん医療を推進するうえで、患者が自身の疑問や価値観を整理し、医療者との対話に参加できる支援体制の整備は、厚生労働

行政上も重要な課題である。

本研究の目的は、第一に、限局期を含むがん患者を対象に、質問リスト（Question Prompt List: QPL）を用いたデジタル化意思決定支援プログラム（Digital Decision-making Support Program: D2SP）を開発し、その効果を検討するとともに、原著論文および論文集として公表することである。第二に、D2SPに患者向け情報提供法および医療者教育訓練法を加えて総合プログラムとして整備し、公開す

ることである。

令和7年度は3か年計画の最終年度として、これまでに開発・検証してきたD2SPおよび質問リスト導入総合プログラムを、全国実装に向けた普及基盤として整備・公開することを目的とした。具体的には、患者向け、医療者向け、施設導入向けの資料をウェブサイト、動画教材、実装支援テキスト、USB媒体として提供可能な形に整備し、分担研究で得られた実装上の知見を反映しながら、全国均てん化に向けた展開を進めた。

B. 研究方法

研究 1-1) 論文集公開

昨年度までにウェブサイト上で公開した QPL 介入研究論文集について、データをアップデートした。

研究 1-2) D2SP の開発

研究 2-1) 実装戦略に基づく総合プログラム

(QPL 導入プログラム) の開発

前年度までに開発・検証した基本の質問リスト、患者向け説明動画、医療者向け資料、単施設観察研究の結果を基盤として、D2SPおよび質問リスト導入総合プログラムを全国展開用に再構成した。D2SPは、17項目版QPL（基本の質問リスト）および患者向け説明動画から構成される患者向け資料とした。質問リスト導入総合プログラムは、D2SPに医療者教育、施設導入支援、実装事例、FAQ、使用方法の5ステップを加えた実装支援パッケージとした。

ウェブサイト公開にあたっては、患者向け、医療者向け、施設導入向けに利用者別の入口を設け、必要な資料にアクセスしやすい構成とした。患者向けには、基本の質問リストと患者向け説明動画を配置した。医療者向けには、質問リストの意義や使い方を説明する動画教材、医師・看護師の声かけ例、FAQを整理した。施設導入向けには、導入フロー、使用方法の5ステップ、実装支援テキスト、実装インタビュー動画を配置し、施設ごとの体制に応じて導入方法を検討できるようにした。併せて、同一資料をUSB媒体セットとして整備し、インターネット環境に依存せず、研修や院内共有、導入準備に活用できる形にした。

分担研究で得られた知見を踏まえて、普及実装資料の内容を検討した。具体的には、九州がんセンターでの実装プロセス評価から、質問リストの配布だけでなく、患者への説明、医療者間の周知、診療・相談場面での活用支援が必要であることを反映した。また、複数施設での導入後評価および施設調整から、配布対象、配布場面、説明方法、院内での役割分担は施設ごとに異なることを踏まえ、標準的な導入フローと、各施設の実情に応じた適応の両方を支援できる構成とした。患者・市民／患者支援関係者にも公開用資料を確認してもらい、患

者・家族にとって分かりやすい表現と導線となるよう修正した。

全国均てん化に向けた展開方針を検討するため、分担研究（藤森・岡村）で進められた多施設導入後評価、全国普及度調査、関連学会と連携した質問リスト実装ワークショップの進捗と成果を確認した。また、国内共同研究施設での打合せ・研修、国内外の関連学会・会議等を通じて、質問リスト、意思決定支援、患者中心のコミュニケーション、実装研究に関する知見収集および成果発信を行い、総合プログラムの普及方法と論文化に向けた検討に活用した。

D2SPおよび質問リスト導入総合プログラムの公開に先立ち、患者市民団体・患者支援関係者に公開用資料の確認を依頼した。評価対象には、患者向け、医療者向け、施設導入向けのウェブページ、説明動画、実装支援資料等を含めた。確認では、分かりやすさ、使いやすさ、ページ導線、必要な情報の過不足、患者・家族にとっての表現の適切性について意見を求めた。

(倫理面への配慮)

本研究に係る調査および観察研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」および各研究機関の倫理規定を遵守して実施した。多施設共同観察研究については、国立がん研究センター研究倫理審査委員会に確認し、同指針の適用範囲に該当しないため審査不要と判断された。一方で、各参加施設の運用に応じて、必要な倫理審査、審査不要確認、または施設内手続きを行った。

ウェブサイト、動画、実装支援テキスト、USB媒体等の公開・配布資料については、個人が特定される情報や未承諾の個人情報を含まないよう確認した。実装インタビュー等の作成・公開にあたっては、公開範囲や使用方法について関係者の了承を得たうえで使用した。患者・家族向け資料は、診療内容の自己判断を促すものではなく、医療者との対話を支援する資料として作成した。

C. 研究結果

研究 1-1) 論文集公開

QPL介入研究に関するシステマティックレビューおよびメタアナリシスについてデータをアップデートし、論文集としてウェブサイトで公開した。

研究 1-2) D2SP の開発

研究 2-1) 実装戦略に基づく総合プログラム

(QPL 導入プログラム) の開発

令和7年度は、3か年計画の最終年度として、D2SPおよび質問リスト導入総合プログラムを整備し、全国実装に向けた普及実装基盤として公開した。

D2SPは、17項目版QPL（基本の質問リスト）と患者向け説明動画から成る患者向け資料としてウェ

ブサイト上で公開した。これにより、患者・家族が診察前に疑問や希望を整理し、医療者との話し合いに活用できる資材を、オンライン上で利用可能な形で提供した。

質問リスト導入総合プログラムは、D2SPに加え、医療者向け動画教材、導入フロー、使用方法の5ステップ、FAQ、医師・看護師の声かけ例、実装のきっかけや導入時の工夫を紹介する実装インタビュー、実装支援テキストを含む構成として整備し、ウェブサイト上で公開した。患者向け、医療者向け、施設導入向けに入口を分けたことで、患者が質問を準備する段階、医療者が診療・相談場面で支援する段階、施設が導入・継続する段階を一貫して支援できる構成となった。

また、同一資材をUSB媒体セットとして整備し、インターネット環境に依存せず、院内研修、共同研究施設での打合せ、導入準備に活用できる提供体制を整えた。これにより、オンライン公開に加えて、各施設の情報環境や研修体制に応じたオフラインでの活用も可能となった。

D2SPおよび質問リスト導入総合プログラムの公開に先立ち、患者市民団体・患者支援関係者に公開用資材の評価を依頼した。評価対象には、患者向け、医療者向け、施設導入向けのウェブページ、説明動画、実装支援資材等を含めた。評価では、分かりやすさ、使いやすさ、ページ導線、必要な情報の過不足、患者・家族にとっての表現の適切性について意見を収集し、それらを整理した。その結果、患者・家族が必要な情報にアクセスしやすい構成、患者向け表現の分かりやすさ、医療者・施設向け資材との区別、導入時に必要な情報の示し方について改善点を確認した。これらの意見は、代表班で整備・公開されたウェブサイト、実装支援テキスト、USB媒体等の構成に反映された。

以上より、令和7年度は、D2SPおよび質問リスト導入総合プログラムを、ウェブサイト、動画教材、実装支援テキスト、USB媒体を含む全国展開用パッケージとして完成させた。

D. 考察

令和7年度は、3か年計画の最終年度として、D2SPおよび質問リスト導入総合プログラムを、研究開発段階から全国実装に向けた普及基盤へ移行させた。D2SPを患者向け資材として公開したことにより、患者・家族が診察前に疑問や希望を整理し、医療者との話し合いに参加するための支援を、オンライン上で利用できる形にした。

本年度の重要な成果は、質問リストを単独の患者向け資材として提供するだけでなく、医療者教育、導入フロー、使用方法の5ステップ、FAQ、声かけ例、実装インタビュー、実装支援テキスト、USB媒体を含む総合プログラムとして整備した点に

ある。前年度までの単施設観察研究では、質問リストの配布は可能である一方、患者への説明、医療者間の周知、診療・相談場面での活用支援が必要であることが示されていた。本年度整備した総合プログラムは、この課題に対応し、質問リストを各施設の診療体制の中で運用するための支援パッケージとして位置づけられる。

本研究班では計画段階から患者市民の声を取り入れ、令和7年度は情報公開に際しても患者市民／患者支援関係者による評価を実施したことで、専門家側の視点だけでは気づきにくい、分かりやすさ、導線、情報量、表現上の課題を確認できた。質問リストは患者が使う資材であるため、患者・家族にとって利用しやすい形に整えることは、実装可能性を高めるうえで重要である。

また、ウェブサイト公開に加えてUSB媒体セットを整備したことは、実装支援上、重要な意義を有すると考えられる。医療機関では、インターネット環境、院内ネットワークの制限、研修体制、職種間の情報共有方法が施設によって異なる。そのため、オンライン資材だけでなく、オフラインで利用可能な媒体を用意したことにより、施設ごとの環境に応じた導入準備や院内研修に活用しやすくなった。

本研究の社会的意義は、患者が「何を聞けばよいか分からない」状況を支援し、医療者との対話に参加しやすくする仕組みを、個々の患者や医療者の努力に依存せず、医療機関の仕組みとして導入可能にした点にある。質問リストは、患者の疑問や価値観を診療・相談場面に持ち込むための具体的な媒介となり、患者中心のコミュニケーション、共同意思決定、相談支援へのアクセス向上に寄与し得る。

E. 結論

令和7年度は、3か年計画の最終年度として、D2SPおよび質問リスト導入総合プログラムを、ウェブサイト、動画教材、実装支援テキスト、USB媒体を含む全国展開用の実装支援パッケージとして完成・公開した。これにより、患者・家族、医療者、医療機関がそれぞれの立場で活用できる普及実装基盤を整備した。

本研究により、限局期を含むがん患者が疑問や希望を整理し、医療者との対話に参加するためのデジタル化意思決定支援資材と、それを臨床現場で導入・継続するための医療者教育・施設導入支援資材が整備された。さらに、多施設導入後評価、全国普及度調査、関連学会と連携した質問リスト実装ワークショップを通じて、全国均てん化に向けた導入支援と実装状況把握するための体制を整備した。

今後は、進行中の多施設導入後評価および全国普及度調査の結果を用いて総合プログラムを継続的に改良し、関連学会、導入希望施設、患者支援団体

等と連携しながら、質問リストを活用した患者中心のコミュニケーション支援の普及と実装状況のモニタリングを進める。

F. 健康危険情報

該当しない

G. 研究発表

1. 論文発表

該当する研究成果については、研究成果の刊行に関する一覧表に記載する。

2. 学会発表

岡村優子, 小濱京子, 藤森麻衣子, 島津太一, 内富庸介. がん医療における質問促進リストの臨床実装. 第38回日本サイコオンコロジー学会総会. 2025年10月10日, 沖縄.

岡村優子. 患者中心のコミュニケーション～現状と今後の展望～. 第23回日本臨床腫瘍学会学術集会. 2026年3月27日, 横浜.

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当しない